



世界に希望を生み出そう

国際ロータリー 2023-2024 年度 前橋北ロータリークラブ会報

2024年1月22日(月) 第1816回

会長 廣木晴久 幹事 上村哲郎

会場監督担当 岡田 賢一 委員



◇ロータリーソング それでこそロータリー

◇会員数 78名 ◇出席 73.07 %

◇ニコニコBOX 菅原次男会員、秋葉亮介会員、
小和瀬健会員、真下遼平会員、
豊田浩之会員、芝入富士夫会員

◇幹事報告 上村 哲郎 幹事
◇委員会報告 IMについて 川口委員長
◇会員卓話 神澤敏夫 会員

◇会長の時間 「職業奉仕」

日本では旧暦1月を睦月(むつき)と呼び、現在では新暦1月の別名としても用います。睦月という名前の由来には諸説あり、最も有力なのは、親族一同集って宴をする「睦び月(むつびつき)」の意であるとするものです。他に、「元つ月(もとつつき)」「萌月(もゆつき)」「生月(うむつき)」などの説があるそうです。1月のロータリーは職業奉仕月間です。2004年11月の理事会決定59号で決定され、10月を指定されておりましたが、2014年10月の理事会で大幅な特別月間の変更がありました。それに伴って1月へ移行された職業奉仕を強調する月間です。

職業奉仕に関する声明が発表されました。職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想の実践をロータリーが培い、支援する方法である。「ロータリーの目的」第2項は職業奉仕の基礎として、具体的には、以下を奨励し、育む。

職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものとの認識し、
社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする

上記の職業奉仕の理想に本来込められているのは次のものである。

- 1) 雇主、従業員、同僚への誠実、忠実さ、また、この人たちや同業者、一般の人々、職業上の知己すべての公正な扱い。
- 2) 自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること

職業奉仕はロータリークラブとクラブ会員両方の責務である。クラブの役割は、頻繁に職業奉仕を実践すること、クラブ自身の行動に職業奉仕を応用すること、模範となる実例を示すこと、また、クラブ会員が自己の職業上の手腕を発揮できるようなプロジェクトを開発することによって、目標を実践、奨励することである。クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って自らの行いと事業、職業、および専門職務を律すること、また、クラブが開発したプロジェクトに應えることである。

「職業奉仕」とは、自分が世の中のためになる職業を、誠意をもって行い、周囲の人たちをより幸せにするために、倫理観をもって仕事をすることである。ロータリーの職業奉仕を一言で表現するなら「世のため人のために奉仕する心をもって 職業を営むべし」仕事のために、社員・取引先(仕入れ先・下請け)・お得意先に迷惑をかけることである。

そしてその職業が社会のために役立ち、周囲の人々により高い幸福度をもたらすものであることが望ましい。そして、その結果としての利益を得て、社会に応分の配当としての「税」を払い、応分の報酬として「自分の糧」をいただくのである。したがって、「職業奉仕」とは、英語では VOCATIONAL SERVICE という考え方で、天職として人に与えられた役目のようなものと考えられる。ロータリアンは職業を通じて世の中に奉仕するものと考えているのです。